一月の子ども俳句

○ たつ年だ　あたらしい年　いい年だ　盛本　彩華

○ 冬にはね　雪もいっぱい　楽しいな　中島　愛

○ 冬休み　楽しいことが　いっぱいだ　種清　唯

○ 雪とけて　春のにおいが　じきくるな　新久昇生郎

○ 自分から　あいさつすると　いい気持ち　宮本　和葉

○ 楽しいな　カルタとり　おもしろい　盛本　彩華

○ お正月　家族ですごす　楽しいな　辰川　勇斗

○ 寒いけど　外で元気に　遊ぼうね　松村　篤

安西小学校吹奏楽団

二月一二日（日）安佐南区音楽祭　（安佐南区民文化センター）

三月一八日（日）　ピジョンコンサート　（安佐南区民文化センター）

三月二五日（日）　ラストステージ「絆」　本校体育館

吹奏楽団の今後の活動予定です。昨年度に引き続き、全国大会出場というすばらしい経験をし、これまでの努力の成果を全国の場で発表することができました。あたらしいメンバーを迎え、六年生を中心とした先輩が、部員をリードし、努力を重ねてきた一年でした。そして、今、後輩へとバトンを受け渡す時期となりました。このメンバーで演奏できるのも後わずかとなり、これからの残り少ない演奏では、子どもたちのこれまでの最高の音を奏でてくれることと思います。

校長室の掲示板に　一月の避難訓練でお話ししました。

釜石の奇跡（きせき）

原則1「想定にとらわれるな」
　○○はだいじょうぶ。○○はたおれない。このような考えを持つな。

原則2「最善をつくせ」　今できることのベストの行動をしよう。

原則3「率先し避難せよ」だれかを待たず。だれかの指示を待たず。すぐ行動しよう。

小学生は、中学生に手をひかれています。これは東日本大震災の大津波から走ってにげる岩手県釜石市の鵜住居小学校（３６１人）、釜石東中学校（２２２人）の避難の様子の写真です。釜石市内の児童・生徒は、ほぼ全員が無事にげのびたのです。「釜石の奇跡」といわれています。小学校では地震のあと、すぐに校舎３階に児童が集まりました。しかし、児童が３階に集まり始めたころ、となりの中学校では生徒は校庭にかけ出していました。校内放送はありませんでしたが、これを見た子どもたちは、中学校との合同訓練を思い出して、みずからの判断で校庭にかけ出しました。児童生徒ら約６００人は、５００メートル後方にある高台のグループホームまでにげます。しかし、裏側のがけがくずれるのを見て、危険を感じて児童生徒はさらに約５００メートル先の高台にある介護福祉施設をめざしました。その約３０秒後、グループホームは津波にのまれたのです。

この写真は、まさに、この介護施設にげる時の様子です。津波は、この介護施設の約１００メートル手前でとまったのです。ここまでのすべてが、避難開始から１０分たらずの出来事だったのです。

二〇一二年の新年に思う

杉山昭夫

希望の光はここに
それは何の前ぶれもなく
三・一一に私たちを襲ってきた
いやそれは私たちを襲おうと思っていたのではない
地球の一部が私たちのそばで動いただけなのだ

しかしその時私たちはいかに無力なのか
誰もが心と体に刻んだ
私たちがいかに当たり前のことを
大切にしていなかったかを悔んだ
しかしあの日はもう戻ってこない
忘れてはいけない三・一一
私たちは這いつくばりながら
よろよろと立ち上がった
いや立ち上がるしかなかった
前に進むことのみが希望を生むことを信じつつ
立ち上がった

植物生態学者の宮脇昭先生は指摘している
自然は大昔から「競争・我慢・共生」であると
私たち人間も自然の一部なのだ
今は我慢のとき
我慢が生きる力を強くしてくれる
私たちの力がいかに小さいものであっても
私たちの心はぜったい壊されない

大川中学校の一年生は一六人が命を亡くし
今は四人だけの学級
学級目標は「笑」
深い悲しみを四人の力で我慢し続けている
四人の友がいるから「笑」が生まれる
「笑」たびに強くなる
一三歳のけなげなる希望の友よ

仮設住宅という名の小さな箱に入った人々の
希望はどこにあるのだろう
光はどこにあるのだろう
いや生かされている
この有り難さを忘れず
私たちは立ち上がり歩き始めた

その歩みがどんなにゆっくりでも
世間には見えなくても歩みを止めない
私たちにはやらなければならないことがあるのだ
大切な仲間と共に我慢強く
何物も壊すことのできない共生のための
強い強いつながりを作ってゆく作業が

私たちは歩みを止めない
いや止めてはいけないのだ
一番苦しんだ街石巻
一番悲しんだ街石巻
だからこそ一番幸せにならなければならない

雨の日も雪の日も歩む我らに光がある
石巻に生きる私たちが日本の希望
私たちの歩みが日本の光
ここに光がある
希望の光はここにある